

個人山行

秋田駒ヶ岳：秋田駒ヶ岳男女岳（1520m赤岩岳まで）

◆日程 2019年1月5日（土）～6日（日）

◆メンバー L：林（単独）

会社の計画年休取得の関係で7日（月）が休みとなったので、土日月の2泊3日で山に行こうと思い、戸隠の高妻山かあまり行ったことのない南ア深南部を検討していたが、今季初の冬山で2泊の山に行く自信がなく家族も心配したため、1泊山行+温泉泊の合わせ技一本狙いに変更。温泉なら東北だろう（最近はどうしても温泉主体になってしまう）…昨年夏に行けなかった和賀山塊がいいけど、公共交通機関で登山口まで行けて帰りに新幹線が使えるところは…と探して隣の秋田駒ヶ岳に決定。

東北には7年余りいたが、ほとんど会越国境か南東北（宮城・山形・福島）の山ばかり行っていて、北東北（青森・秋田・岩手）の山に行ったのは5月の岩手山と3月の神室山ぐらい。それでも宮城・山形・秋田県境にある虎毛山塊には仙台にいた2014年、2015年の2シーズンの冬から春にかけて馬鹿みたいに通った。近くにある鳴子温泉郷の存在も虎毛通いの大きな要因。湯めぐりチケットを駆使して中山平温泉の湯めぐりスタンプラリーで年間10湯を達成し、ご当地キャラ「ゆころん」の特性バスタオルと風呂桶をゲット。虎毛では夏道のある縦走路や禿岳の数本を除いて冬の記録があるルートはほとんど無く（あるいは公表されていないだけかもしれないが）、他パーティーに会うことは皆無。1人か2人の山行ばかりで、ほぼ全てがノントレースのファーストラッセルだったが、オリジナルなラインを歩き、行く度に新たな発見があることにプリミティブな喜びを感じていた。北東北でもそんな山行をやっていきたい、初めて行くエリアなので、今回は土地勘と山城の概念を掴むという目的も兼ねて秋田へ向かった。

1月5日（土） 天候：曇り時々雪

前夜、家を出てすぐにスノーシューを忘れたことに気が付き引き返す。危うく丸腰で向かうところだった。横浜を出発した夜行バスは、朝6時ぐらいに横手に着き、大曲、角館を経由して田沢湖駅前へ。定刻より早く到着し、発車直前の乳頭温泉行のバスに飛び乗った。1時間に1本のバスなのでツイている。他の乗客はおらず貸切状態。冬の入山口となる「アルパこまくさ」で降車。「アルパこまくさ」は温泉も併設されている贅沢すぎる登山基地。週末なので他の山やスキーヤーがいると思ったが、その気配もない。入山準備の後、スノーシューを履いて出発。施設の裏から歩き始めるが、いきなり膝まで埋まるラッセル。やがて正月のスキーのトレースと思しき僅かな窪みと合流すると、底のあるラッセルとなり、かなり楽になる。雪が降ったり、時折青空が覗いたり目まぐるしく天気が変わる中、スキー場跡地を東へ向かう。途中で車道（駒ヶ岳線）に合流する所が分からず、早めに右へ入ってしまい、少しロスしたものの、出発して3時間半で車道に出る。ここからは車道を辿っていけば八合目小屋に着くはず…だが、ガスの中、降雪が激しくなり、車道の判別も難しくなり、連番が振られたカーブミラーを見つながらのオリエンテーリング状態。残り4～5つぐらいの所で登り方向に進んでしまい、地形的におかしいことに気が引き返す。沢を横断するように橋が架かっているのだろうが、完全に雪に覆われていて判別がつかない。やがてカーブミラーがあり安心。やがて大きな小屋（休憩所）が見えてきた。入口が分からず、裏に回り込むと半分雪に埋まった梯子が見えた。スノーシューを外して梯子を登り、扉もちゃんと開いてくれた。が、誰もいない。1階は窓があって明るいので、食事は1階で取る。寒いけど、ビールが旨い。ラジオで聞いた天気予報では明日も同じような天気らしい。物凄く寒いので、2階で小屋天にしてシュラフに潜り込んだ。（記：林）

CT：アルパこまくさ 9:40 - 八合目小屋 15:30

1月6日(日) 天候：雪時々曇り

4時起床予定だったが、少し寝坊した。寒さの余り寝た気がしないが、一応は眠れたということか。天気予報は変わらず曇り時々雪という感じ。計画では男女岳、男岳を踏み、横岳、湯森岳、笹森岳を經由して乳頭温泉郷へ下る縦走だったが、昨日のような天気だとかなり厳しい…男女岳、男岳から五百羅漢経由で水沢温泉郷に下るのが精一杯か？朝食後、外を見ると、まさかのホワイトアウト。小屋から敗退？ともあれ、行動を縛られたくないので全装備を背負って出発。外に出ると、少しガスっているが、雲が薄く青空が透けて見えそうな気もする。判断のポイントを間違えないように行ける所まで行こうと男女岳に向かって小尾根を登っていく。隣の尾根と合流し、這松のモナカ雪が断続する所でウンザリしてやめようかとも思ったが、やがて吹きっ晒しの堅雪となり、気を取り直す。小高いピークに出た所で少し下った先にはぼんやりとだが、大きな斜面が見える。このまま進むと、強風、ホワイトアウトで下山時のリスクが増すが、何よりもピークに立ったところで何も見えなければ意味が無い…そもそもピークに立つこと自体は区切りではあるが、目的ではないはず…そんな逡巡を繰り返して阿保らしくなり、ここで引き返すことに決めた。登ってきたトレースは消えかけた箇所もあったが、概ね残っていたので気楽な下山。敗退を決めた今、気分は既に観光モード。温泉、ビール、美味しい食事が待っている。そんな気分を下っていると、ふと光が射した。光源である東の空を見上げると、一部だけぽっかりと青空があり、太陽？が見えた…上部に齧られたような凹みがあり、一瞬月？かと思ったが、そんなはずはない…部分日食か！そういえば朝のラジオで言っていたような…ほとんど曇っているせいか普通に肉眼で直視できる。急いでカメラを取り出し、黒雲が被さる寸前でシャッターを押す。悪天にも関わらず、お天道様が披露してくれたサプライズなご褒美にますます気分も良くなり、ルンルン敗退行となった。難なく小屋まで戻り、車道に出ると前日のトレースは結構消えていて、相変わらずのオリエンテーリング状態。順調にカーブミラーをカウントし、そろそろスキー場跡地に入る辺りか…と思っていたら、道路脇の灌木に赤布を発見。これが目印だと判断して樹林帯に入ると、進行方向からスキーヤーが登ってきた。入山して初めて人に会う。会話を交わすと、今日はCATが入っていないので道路と合流する辺りまでとのこと。CATは雪上車のことを指すらしい。トレースを辿って「アルパこまくさ」に到着。まずはバスの待合いを兼ねて温泉1湯目、バスと徒歩で宿泊する「駒ヶ岳温泉」に移動して2湯目、夜は無料送迎サービスの乳頭温泉「鶴の湯」で3湯目と、自分へのご褒美尽くしの温泉三昧。さて、今冬の目標は和賀山塊。行くぜ、東北。冬のごほうび！（記：林）

CT：八合目小屋 7:20 - 男女岳下 1520m付近 8:45 - 八合目小屋 9:20
 - アルパこまくさ 12:50



初日 スキー場跡地の登高



一瞬覗いた小さな青空に現れた部分日食！